

種まきから収穫まで

自ら生きる力を持った健全な子どもたちを育て、社会に送り出したい。そんな願いが結実して、子どもたちから学ぶ場を提供している施設がある。首都圏から電車約1時間半、神奈川県松田町にあるNPO法人市村自然塾関東（枝村敏彰塾頭）がそれだ。その日だけの体験ではなく、年間を通じて同じ参加者が種まきから収穫までを行うのが大きな特長だ。豊かな自然につつまれながら農作業に汗を流す子どもたち取材した。

大地を耕して 生きる力



土に触れていると大地から元氣や喜びが返ってくる

「山が間近に迫り、鳥がさえずり、小川が流れ、夜は真っ暗闇に包まれて空には満天の星。そんな自然にあふれていて、しかも都心から近い場所。こんな場所を探し求めて、そこに畑を開き、都会の子どもたちに農業体験を。」

仲間との共同生活年間週末18回

そんな思いを実現している市村自然塾は、㈱リコーとリコー三愛グループ創始者の生誕100周年を記念して、02年に設立されたNPO法人。

元㈱リコー会長の浜田広が始めたもので、これまでに送り出した卒業生は500人ほかに上る。

こだわった立地条件は、子どもたちに自然のありがたさを感じさせる

え付けなどの農作業に汗を流していた。3月から11月まで、小学校4年生から中学校2年生までの男子28人、女子28人が交互に金曜日の夕方から日曜日の昼までの2泊3日を過ごす。週末の農作業は年間を通じて全部で18回（ステーション）、延べ36泊54日と長い。9カ月の間に20種以上の野菜を植えつけ、収穫する。現地までの交通費と保険料などは自己負担だが、宿泊費や食事代、参加活動費は無料だ。取材した日は、女子の第5ステーション。

NPO法人市村自然塾関東



取材した活動日は新緑の季節。周辺の山々は明るい緑や常緑樹の濃い緑など様々な色に包まれ、盛り上がりが見える。好天に恵まれ、塾に到着したときには、子どもたちはすでに、炎天下の畑でサツマイモの植

みそづくりに挑戦する子どもたち
.....
敷地の丘には塾舎を中心体験農園や茶畑が広がっており、その周りには自然のままの雑木林などが広がっている。畑の広さは、5カ所ほどに点在している約5900平方メートル。そのため、農園では出沒するシカやイノシシによる被害もあるという。農作業以外にも、みそづくりや収穫祭、ハイキング、虫観察などの行事も盛りだくさん。それらを通して、共同生活をしながら助け合うことの大切さを学ぶのも、大きなねらいだ。

参加者に感想を聞いてみた。小学校5年生の長田野亜さんは「農業をやっていたおばあちゃんに勧められて参加しました。みんなといっしょの生活がとても楽しいです。同じく5年生の大園樹さんは「1人で参加していますが、みんなが協力してくれて、とても嬉しいです。6年生の鈴木璃夏さんは「農業ではきついなともありますが、協力し合うことで達成感があります」と答えてくれた。

小学生が単身で参加しているわけで、ホームシックや不慣れた生活がいやになることもあるだろうと思いつ、そんな本音が聞けるかと思つたが、3人は底抜けに明るかった。

布団の上げ下ろし、塾舎の掃除、薪で炊くご飯の準備や後片付けなどで、身の回りの仕事はほとんど参加者自身が行う。こうした体験は、帰宅してからの生活にも大きな変化となって表れている。

参加者の保護者の1人は担当者にメールで「2回の塾生活を経て変化したことは、いままで口にしなかったニンジンやブロッコリーなどの野菜を少しずつ食べるようになったことです。あと、最近、トイレ掃除を率先して毎日してくれています。学校から戻りましたら、宿題よりも何よりもトイレ掃除をしている姿が微笑ましいです。今まで親が言っても聞かなかったことをすんなり実行していることで、とても成長しているなど実感します」と書いてきた。

また、塾の支援元である㈱リコーの吾妻まり子CSR室長は「次世代を担う子どもたちを健全にはぐくむ場として、このような取り組みが社会の各界の協力のもとで、全国的に広がっていくことを期待したい」と熱く語ってくれた。

企業による社会貢献活動では「より多くの子どもたちに」という視点の取り組みが多い。その中で同塾のように、少人数の子どもたちに長時間をかけてじっくりと体験させて学ばせるという取り組みはめずらしく、大きな意義があるといえる。

全国的に増えている遊休農地で、こうした取り組みをしていくことも可能ではないだろうか。

問い合わせは㈱リコーCSR室／TEL03(62778)5202、または市村自然塾関東／TEL0465(8)2066。